

＝NPO法人住まい安心サポート秋田＝ 個人から地域へ波及する課題を考える 空き家対策セミナー

年々増加する空き家の対策が社会問題として重要性を増す中、NPO法人住まい安心サポート秋田（秋田市広面字鍋沼37パソコン専門店COM内、佐々木義文理事長）主催の「空き家対策セミナー」が13日、秋田市上北手荒巻の遊学舎で開催され、同法人の会員や一般市民ら約30名が聴講した。

あいさつに立った佐々木理事長は、「空き家対策は、所有者個人から地域課題へと波及した重要テーマ。人口減少率が全国一、持ち家率も全国一となった本県では現在、8戸に1戸が空き家と言われ、2040年には4割に達するとの推計もある」とした上で、「所有者と利活用希望者がマッチングすれば、改修などの需要も生まれる。地域の空き家情報を共有し、橋渡ししていく取り組みは、これからますます重要になる」

と述べた。

セミナーでは、「知っておきたい『土地』の知識」の演題で、宅地建物取引士の金子敬司氏（金子地所代表取締役）が登壇。土地の売買契約における瑕疵担保責任の所在や、事故物件などの「心理的瑕疵」をどこまで考慮するかといったデリケートな事柄について、事例を挙げながら説明した。

「知っておきたい『建物』の知識」の演題で講演した美研ウッド建築営業部のシニアマイスター・角田茂氏は、「長く閉ざされた空き家はボロボロの状態、人間と同じように『呼吸、しないと健康を保てない』として、住宅の保守管理・メンテナンスのポイントを部位別に紹介した。

また、不動産コンサルティングマスターで同法人副理事長の傳野正一氏が「最近の相談事例」として、町内会の依頼を受けエリア内の空き家調査を行った事例などを紹介。「空き家は原則として火災保険の対象外だが、空き家見守りサービスを契約すれば加入できる仕組みもつくった」などと述べ、利活用の推進に期待を寄せた。